

# 新型コロナウイルス感染症の予防接種を受けるにあたっての注意事項

## 1. ワクチンの効果と副反応について

新型コロナウイルスワクチンについて、国内外で実施された研究などにより、新型コロナに感染した場合の入院や死亡等の重症化を予防する効果が認められたと報告されています。ワクチン接種に伴う副反応として、接種後に注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱等がみられることがあります。こうした症状の大部分は、接種後数日以内に回復します。また、まれな頻度でショックやアナフィラキシーが発生することがあります。そのほかごくまれに生じる重い副反応として、心筋炎や心膜炎を疑う事例やギラン・バレー症候群が報告されています。

なお、本ワクチンは新しい種類のワクチンのため、これまでに明らかになっていない症状が出る可能性があります。接種後に気になる症状を認めた場合は、接種医あるいはかかりつけ医に相談してください。

## 2. 次の方は接種を受けないでください

- 1) 明らかに発熱している方(通常は37.5℃を超える場合)
- 2) 重い急性疾患にかかっている方
- 3) 本剤の成分によりアナフィラキシー(通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のひどいじんましんを伴う重いアレルギー反応のこと)を起こしたことのある方
- 4) その他、いつも診てもらっている医師にワクチンは受けない方がいいといわれた方

## 3. 次の方は接種前に医師にご相談ください

- 1) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患及び血液疾患などの基礎疾患のある方
- 2) 過去にけいれん(ひきつけ)の既往症のある方
- 3) 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方、近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- 4) 接種するワクチンの成分に対してアレルギーが起こるおそれがある方
- 5) 抗凝固療法を受けている方、血小板減少症または凝固障害のある方

## 4. 接種後は以下の点に注意してください

- 1) 接種後30分間は、アレルギー反応(息苦しさ、じんましん、咳など)が起こることがありますので、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- 2) 副反応(発熱、頭痛、痙攣など)の多くは24時間以内に発現しやすいです。特にこの間は体調に注意しましょう。
- 3) 接種後に接種部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたら医師の診察を受けてください。
- 4) 接種後の入浴は問題ありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- 5) 接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、接種当日は激しい運動や大量の飲酒は避けてください。
- 6) 接種後4日程度の間に、胸の痛みや息切れ等の症状がみられた場合には、速やかに医療機関を受診してください。

## 5. 予防接種を受けない場合

接種医の説明を十分聞いた上で、本人が接種を希望しない場合、家族やかかりつけ医の協力を得ても本人の意思が確認できなかったため接種をしなかった場合、当日の身体状況により接種をしなかった場合などにおいては、その後当該感染症に罹患、あるいは罹患したことによる重症化、死亡が発生しても、担当した医師にその責任を求めることはできません。

## 6. 予防接種による健康被害救済制度について

予防接種では、健康被害(医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすることはできないことから、救済制度が設けられています。

健康被害が予防接種によるものと予防接種・感染症医療・法律など、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議、厚生労働大臣が認定した場合、健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。